

11月は、学校の大きな行事も終わり、教師も子どもも落ち着いた気持ちになる時期です。この時期に、子どもたちが自分を見つめ直すとともに、学級の友とのかかわりについてじっくり振り返ったり、学級の問題点について話し合いをしたりすることは、お互いを認め合う学級づくりの基盤になります。人権感覚を育みながら、助け合い、支え合える学級づくりを進めていきましょう。



<小学校>

学級づくりをキャリア教育の視点からみると

人権尊重の視点に立った係活動の充実

秋深まる中、学級の係活動もしっかりと深まっていますね。一人一人に役割があり、係活動を充実させると、責任感も高まり、何よりも学級の一員としての存在意識が高まります。そのためにさらにこんな工夫はどうでしょうか？



- ・行事など忙しい時には、係活動も滞ることがあるので、週に2回程度、朝会の時間に係活動ができる時間を設ける。（「活動してないぞ！」と指摘するよりも、その時間の保証を作ってあげましょう！）
- ・係の種類として、管理的な係（黒板消し、花の水やりなど）だけでなく、文化的・創造的な係（読み聞かせをする図書係、自分たちで宿題をつくる宿題係など）を設け、意欲的に暮らしをつくる楽しい活動ができるように工夫しましょう。



付箋紙を使って1人ひとりの声が反映される学級会を開きませんか

学級会の中で特定の子どもの声に学級全体が引っ張られることはありませんか。付箋紙を使うと、1人ひとりの声が反映されやすくなります。

- ①学級の課題を1人ひとりが付箋紙に書く。
- ②グループで席を組み、模造紙に付箋を貼る。
- ③貼られた付箋紙全体を見る時間をとり、似たような考えの付箋紙があれば、貼る位置を近づける。
- ④付箋紙のまとまりに「給食の配膳が遅い」などとタイトルをつけていく。
- ⑤タイトルに対し、改善の方法を話し合う。
※タイトルに優先順位をつけて、議題をしぼってもよいです。
※グループで出された課題を学級全体で共有し、解決の方法を全員で考えてもよいです。

付箋紙を利用することで、問題解決に主体的に関わる経験をより多くの子どもたちに積ませていくことができます。

<中学校>

学級づくりをキャリア教育の視点からみると

学級「いじめ防止宣言」をつくろう

いじめの問題に対して、子どもたちの主体的、自主的な取組を進めましょう。

- 1 『いじめ防止宣言』に盛り込むテーマをグループの数だけ決めましょう。
例) 見えにくい「ネットいじめ」の予防
- 2 グループでテーマについて話し合い、グループとして考えをまとめましょう。
- 3 全体発表、他グループとの意見交換を経て、自グループの考えを深めましょう。
- 4 各グループの意見を盛り込み、学級「いじめ防止宣言」をつくりましょう。



学級だより等で発信し、保護者と一体となっていじめ防止の機運を高めていきましょう。

学級の問題に気付き解決する学級会の工夫

子どもが学級の問題に気付くためには以下のようなことが考えられます。

学級会の前に少人数で話し合う機会となる班長会を行う。

班長会で→子どもから普段の生活の中で気になっていることを出すように促し、情報の共有化を行う。

学級会で→班長会からの議題として諸問題を出してもらい、学級で改善のための話し合いを行い解決に向かう

ビデオカメラで学級の様子を撮影する。
撮影する場面は→給食や清掃、学活などの普段の姿を撮影する。

学級会で→全員で試聴し、気付いたことを班で話し合い、班ごとに改善案を出し合う。